

与論島を活性化するためにはどうすればよいか

学籍番号 0715600036 氏名 石原明依

私は与論島に行き、透き通ったコバルトブルーのすばらしい海と、島の人々の暖かい優しさに最高のおもてなしを受けた。与論島は初めて訪れたが、一度訪れれば絶対にもう一度訪れたいと思うような本当に魅力溢れた島であった。そこで私は、その訪れてみようという第一歩を多くの人に踏み出してもらう方法(観光客増加)、そして観光客が快適に与論島を楽しむことのできる工夫、最後に与論島への定住を勧める方法の3つの観点から与論島を活性化する方法を考えた。

まず、観光客に与論島に来てもらう方法だ。これには、島の情報や広告を広く発信することが重要であると考えます。実際に、近年減少していた観光客数は、テレビや雑誌等のメディアに取り上げられたことによって、少しではあるが回復してきている。今後も、積極的に広告活動を行っていくべきである。また、本土において外国人観光客が増加しているが、外国人観光客は与論島においても新しい客層として期待できる存在である。私たちが行きに乗ったフェリーでも、与論島を訪れる外国人観光客が見受けられた。よって、今後は海外に向けた宣伝活動も必要だと感じる。しかしここで、1つ問題となるのが島の外国語への対応力不足である。海外向けの広告を作る能力が必要な他、もし宣伝活動が成功したとしても外国人観光客が増加した場合に彼らに外国語で対応する力も必要となる。

訪れた観光客に快適に島の魅力を楽しんでもらうためにはどうすればよいか。私が島を観光して感じたことは、情報が少ないことである。例えば食事の場所を探すとき、どのようなメニューがあり、またどれくらいの価格なのかを参考にして、店を選ぼうとしたが、メニューや価格が店頭に表示してある店はほとんどなく、またインターネットの情報を参考にしても、情報がない店も多々見られ、店頭やインターネット上に店の情報があると良いと強く感じた。また先程も述べたように、今後外国人観光客が増加することが期待されるが、外国語の情報も不足している。島内の案内看板には日本語しか書かれておらず、外国語の表記があると、外国人にも観光すべき場所や行きたい場所が分かりやすくなるはずである。また、民宿の情報なども、日本人観光客向けのものと同様に外国人観光客向けのインターネットサイトなどを設立したり、外国語の話せるガイドをつけたりすることで、外国人観光客も更に与論島の魅力を感じることができると思う。鹿児島大学には、外国語の堪能な沢山の先生方がいる。このような先生方と協力し、勉強会を開いたり、指導を受けたりして、外国語の宣伝活動や島内の外国語情報の充実化、ガイドの育成などを行っていけば、日本人だけではなく外国人観光客の方も快適に楽しむことのできる島となっていくだろう。

そして最後に、与論島への定住を勧める方法である。私は、まず島内の住宅を整備することから始めるべきだと考える。台風の多い与論島において、島民でさえも仮設住宅や町

営住宅に済み、満足に家を持っていない現在の状況では、新たな定住者の増加を望むことは厳しい。よって私は、与論島に建築業者を誘致し、倒壊した住宅の再建を早急に進めるとともに、島民と鹿児島大学とが協力し台風能耐える与論島式の家を開発・設計・建設に取り組むことを提案したい。民族村を訪れたとき、敷地内を案内してくださった方から与論島の台風被害の状況、本土で用いられる現代式の長寿命を謳う住宅も与論島では寿命が短くなってしまうこと、民族村内にある沖縄式の住宅は大きな台風の被害は受けなかったこと等をお聞きした。気候や地理的条件、抱える歴史的背景が異なれば、その土地に適した住宅の様式も異なる。本土には本土の、沖縄には沖縄の、与論島には与論島の住宅が必要である。鹿児島大学の建築を専門とする学生や建築に興味がある学生からアイデアを募ったり、島民と意見交換を行ったりすることで、若い新しい考え方を取り入れながらも、与論島のアイデンティティを生かし島に適した住宅を作っていければよいと思う。

今回、私が与論島の活性化に鹿児島大学を結びつけることにこだわったのは、多くの島の人々から鹿児島大学への感謝や期待の声を聞いたからだ。与論島のあのきれいな海と暖かな島の人々とのふれあいの魅力は万国共通で、すべての国籍の人々を魅了するに違いない。鹿児島大学と与論島とが協力し、互いを活性化し合い、与論島が東洋に浮かび輝く 1 個の真珠として更に輝きを増していくことを切に願っている。